

山口フィナンシャルグループ
10周年スペシャル企画

対談

この秋に迎える山口フィナンシャルグループの10周年を記念し、この夏重要な試合を控える石川選手と吉村社長、福田会長の3者によるスペシャル対談の模様をお伝えします。

山口フィナンシャルグループ
取締役社長
山口銀行 取締役頭取

吉村 猛

Takeshi Yoshimura

【プロフィール】

2009年6月より山口フィナンシャルグループ取締役、2011年6月より山口銀行常務取締役。2016年6月山口フィナンシャルグループ取締役社長、山口銀行取締役頭取に就任。

山口フィナンシャルグループ
イメージキャラクター

石川 佳純 選手

Kasumi Ishikawa

【プロフィール】

山口県山口市出身。小学1年生から卓球を始める。2015年全日本選手権で54大会ぶりの3冠を達成。同年、世界選手権個人戦のミックスダブルスで38年ぶりとなる銀メダルを獲得するとともに、ワールドカップでは日本人女子初の準優勝。今年3月にクアラルンプールで行われた世界卓球選手権団体戦で銀メダルを獲得。これから益々活躍が期待される23歳。

山口フィナンシャルグループ
取締役会長
山口銀行 取締役会長

福田 浩一

Koichi Fukuda

【プロフィール】

2004年6月より山口銀行取締役頭取、2006年10月山口フィナンシャルグループ取締役社長に就任。2016年6月山口フィナンシャルグループ取締役会長、山口銀行取締役会長に就任。



重要なのは、挑戦し
つづけることと
あきらめないこと。

福田：石川選手は、山口フィナンシャルグループ（以下、山口FG）のイメージキャラクターになっていただいてから4年目になり、より身近な存在として、いつも応援しています。世界を舞台に戦う上で、一番重要だと思ふことは何ですか。

石川：新しいことに挑戦しつづけていくことと、絶対にあきらめない粘り強い心だと思います。あきらめずに挑戦しつづけていると、できなかった技術や



難しいなと思っていた技術がだんだん自分のものになって、最終的にできるようになる。自分が思っていた以上のナイスボールが打てたりする。そういうことがすごくうれししいし、成長していると感じます。一つひとつできることが増えていって、一歩ずつ進んでいるのを感じたときが、やはり今はすごくうれしいです。

お客さまのために サービスを 磨きをかけて。

石川：新しいことに挑戦していくという点では、山口FGも、どんどん新しいことに挑戦している印象が強いですが、どのようなことを意識されているのですか。

吉村：山口FGは、地域がより良いものになっていくために、様々なことに挑戦してきました。昨年は、地方創生専門の新社「YMFG ZONE プラニング」や、山口県と共同で「女性創業応援やまぐち」という会社を設立するなど地域を

もっと元気にするために貢献する仕組みを整えてきました。

今年、新しい中期経営計画が始まり、行動指針に「コンサルティング・ファースト」を掲げています。まずお客さまのお話をお伺いして、最適なご提案をもってお客さまのお力になれるよう、サービスの質に磨きをかけて。このことに社員一人ひとりが挑戦しているんですよ。また、営業店の社員がお客さまへのサービスに注力できるように、プロフェッショナルを集結した本部体制へと改編し、サポート体制も万全です。

いつも 支えてくれる 家族の存在。

吉村：ところで、大きな舞台で戦うときはご家族のサポートの力がやはり大きいのですか。
石川：いつも支えてくれて応援してくれる非常に心強い味方ですね。卓球を始めたころから、この姿勢はずっと変わっていないのでありがたいです。

小学校3年生の時には自宅に

卓球場を作ってくれて。大きな試合のときは必ず応援に来てくれます。これって、当たり前のように、実はすごくありがたいことだなとあらためて思います。世界で戦い始めたのが平成20年、中学・高校のころです。すでに大阪で寮生活の日々。それでも電話連絡は常でしたし、試合は必ず見てくれていましたから、私の卓球の良いところや、悪いところはすべて分かってくれているという安心感がありました。試合前にかけてくれた「自分らしいプレイで、思い切り攻めてくればいいよ」という言葉が印象に残っています。





相談し、
刺激しあえる
大切な仲間。

吉村：卓球のチームメイトや仲間との関係はいかがですか？
石川：お互いに刺激しあい、団体戦では力を合わせて支えあって、いいプレイができています。先日、マレーシアのクアラルンプールで行われた世界卓球選手権団体戦の銀メダルもみんなのパワーが一つになったからこそ手にすることができた銀メダルだと思っております。

以前は、日本の選手が相手となると、お互いをよく知っています。



るだけに少しやりにくさを感じることもありましたが、でも今はそれが試合の結果に影響するということはないですね。

大切な試合に向けて、実際にダブルスを組んで練習や試合を重ねるのがとても楽しいですし、いろいろなことを相談しあえる関係です。

吉村：そういえば、試合の際に、お互いに声を掛け合っているのですが、どんな言葉を掛けているのですか？

石川：相手選手の特徴や自分が試合をして得た感触を伝えたり。けれど、それぞれ選手のやり方があるので、自分がこう感じたということだけ、少しアドバイスできたらと思っ

て声を掛けています。愛ちゃん（福原愛選手）や美誠ちゃん（伊藤美誠選手）とは、戦い方や戦略も違いますが、私も相手の印象を聞いて参考にしています。声掛けは、メンタル面で支えあうという意味合いが大きいですね。

もちろん、卓球以外の友だちとの時間も大切にしています。日頃が卓球漬けなので、会うとリフレッシュできるし、刺激になります。



萩焼のお茶碗は
今でも自宅に
飾っています。

福田：いつも前向きな石川選手の姿勢は、山口FGの経営方針「健全なる積極進取」と重なり、一緒に頑張っているという気持ちにさせてもらっています。

これまでたくさんさんの山口FGのCMに出演していただいたり、イベントに参加していただいたりしましたが、何か印象に残っていることはありますか。

石川：山口銀行豊洲支店の開店（平成27年2月23日）記念イベ

対談



ントに参加させていただいたのですが、豊洲支店は、とってもきれいで、明るいイメージのお店だと思いました。ちょうど開店日が私の誕生日だったので、卓球のラケットをモチーフにしたバースデーケーキでお祝いしていただいて、すごくうれしかったです。

CM撮影では、萩焼を作らせていただいたときにろくろを実際に回して成形をしたり、萩の町並みを歩いたり、漁港では地元の漁師さんとお話をしたり、着物を着たり、落語をしたり：楽しい体験がたくさんできました。萩焼のお茶碗は今でも自宅に飾ってあるんですよ。山口FGの本社で、銀行員らし

いスーツを着て、銀行の内側に入って撮影をしたのも楽しかったですね。内側からロビーを見たら「こんな感じなんだ」と新鮮でした。

常にお客さまの
視点に立って
進化し続ける。

石川：山口FGは今年10月に開業10周年を迎えるということですが、これからの夢は何でしょうか。

福田：地域のお客さまにとって、より良い金融グループであり続けることです。常にお客さまの視点に立って、新しい発想で進化し続けていきたいですね。

後悔は
絶対したくない。
全てを懸けて…。

福田：石川選手も大切な試合が目前に迫っていますね。石川：全てを懸けて準備をしたと思いますし、後悔は絶対し



この対談の様子はテレビCMでもご覧いただけます。

たくないです。応援してください。たくさんの方々が良い姿を見せたいという気持ちはもちろんありますが、やはり自分自身が後悔しない状態で挑みたいという気持ちがあるので、全てを懸けて頑張りたいと思っています。

で応援していきたいと思えます。そして、山口FGも、地域のさらなる成長に貢献できる金融グループであるために、より多くのことに挑戦していきたいです。これからは、お互い地元のお役に立っていききたいですね。